

Akatake Times

Vol. 6
(通算 第159号)

気候も暖かくなり大分過ごしやすいシーズンになりました。
皆さんゴールデンウィークは楽しめましたか？
仕事もプライベートも充実できるよう、健康管理に気を付け頑張っていきましょう。



『こいのぼりフェスティバル』

『今月の表紙』

毎年ゴールデンウィークになると、沼津港の近くの公園で『こいのぼりフェスティバル』が開催されます。今年で31回目となるこの催しは、「沼津を盛り上げたい！」という思いから地元の青年有志が集い開催されたのが始まりとのこと。

こいのぼり約100匹に加え、市内の幼稚園児・保育園児の手作りこいのぼり約200匹が、大型展望水門「びゅうお」を背に、楽しそうに空を泳いでいました。

その中には、沼津の特産品であるアジの干物をモチーフにしたこいのぼりも数匹ほど。その名も「ひものぼり」だそうです。

撮影日：2015年5月3日 撮影場所：沼津市 港口公園



春暖の息吹を発している葉桜を私はとても好きです。過ごしやすい季節が今年もやってきました。

■時は少し遡(さかのぼ)りますが、昨年暮れに粉技協(一般社団法人日本粉体工業技術協会)が開催した技術情報交流懇話会に出席しました。第1部が講演会、第2部が懇親会で構成されています。講演は、「禪とグローバルゼーション」と題して臨濟宗 大本山妙心寺塔頭 退蔵院 副住職 松山大耕氏のお話でした。インドで生まれた「禪」は、達磨大師によって中国に伝えられ、中国で大いに花開き、日本に渡って独自の変化を遂げ、洗練されてきたとのこと。松山副住職のお話は概ね次のとおりでした。『禪の意図するところは禪という漢字そのもので、「示」偏に単純の「単」、つまりシンプルを示すことである。すべての根幹にあるのは、不要なものを極限まで削ぎ落とし、あるべき本来の姿に向かうという考え方であり、禪とは、とらわれない、まっさらな澄み切った心を意味すること。偶然にも漢字そのものが禪の真髓を端的に表している、このシンプルが世界の多くの人たちの心をとらえて禪がブームになっている理由のひとつでもある。』

禪は奥深く、誠に難しいものと思っていますが、シンプル イズ ベストと考えれば分かりやすいですね。懇親会に入り松山副住職と名刺交換をする機会を得、短い会話でありましたが、三島市澤地にある龍澤寺(我家の檀家寺)の話題が出て、更に龍澤寺のご住職の後藤栄山老師のお名前が出た時には、驚いてしまいました。なんと松山副住職は栄山老師と親せき筋にあたるとのことでした。初めてお会いした方とのチョットした会話の中で共通の人物が出てくるとは思いもよりませんでした。なんか親近感を覚え、退蔵院に副住職を訪ねてみたいと思っています。

■私が入会している奉仕団体・沼津ライオンズクラブは、倉敷市の倉敷ライオンズクラブと姉妹提携をしています。1978年、アイバンク運動をきっかけに交流をはじめ、お互いの周年行事には大勢のメンバーや家族が行き来しています。私も結構知り合いが増えまして、種々勉強させていただいています。ライオンズとは関係がありませんが、とある全国的な組織の会合が東京都内でありまして私の義兄が参加しました。その義兄が隣に座った方と話をしていると、どうやら私にいきついたようです。エーッ!と二人とも驚いてしまったようです。ライオンズクラブがキーワードだったようです。ご縁に感謝。

■これは、最近の話ですが前述のライオンズの交流会がありまして倉敷LCのメンバーと家族が来沼され、沼津LC55周年を大いに祝っていただきました。二日目は、静岡方面にエクスカーションで出かけ、三保の松原、日本平ホテルでの会食、次郎長が晩年清水波止場で営んだ船宿「末廣」の見学、久能山のイチゴ狩りなどを楽しみました。県内に住んでいてもなかなか行く機会がないので、こういう機会は誠にありがたいと感じた次第です。この旅先で倉敷LCメンバーの方々とは話をしますが、そのうちのお一人(初めてお会いした)Mさんと何気ない、取り留めのない話題の中で掛川、菊川、彼の友人、落合姓などのワードが出てくるわけです。私は、菊川出身ですから自然と話はずみ、落合姓なら私も知っているの、そのうちの一人の名前 落合K君の名前を言ったら、な・な・なんと二人の共通の人物でした。Mさんと落合K君は大学時代からの親友だとのこと。

■先日、日本経済新聞に掲載されている新刊の広告が目にとまりました。
【「いつ死んでもいい」なんて嘘。生きていかざり、人間は未完成 篠田桃紅 103歳になってわかったこと】
篠田桃紅(とうこう)は、1913(大正2)年生まれ。墨を用いた抽象表現主義者として世界的に広く知られており、数えて103歳となった今も第一線で製作している。その作品は大英博物館、メトロポリタン美術館をはじめ世界中の美術館に収蔵されている。・・・との紹介が掲載されていました。103歳になっても創作意欲が旺盛とは何て素晴らしいことでしょう。穏やかで謙虚な珠玉の名言が一杯詰まった本を買ってみようと思っています。篠田桃紅といえば我々沼津市民とまんざら無縁ではありません。以下の新聞の記事を思い出す人もいましょう。

毎日新聞(2014年04月25日)の一部を紹介します。静岡県沼津市役所4階特別応接室のカーテンの裏から、抽象美術家、篠田桃紅さん(101)の前衛書道の壁画が見つかった。約30年前に作品の前にカーテンをかけ閉め切ったため、いつしか職員も存在を忘れていた。突然のお宝発見。縦2.5メートル、横7メートルの大作「泉」。1966年7月の市庁舎完成に合わせ、当時120万円で購入した。発見の端緒は栗原裕康市長が親類から「篠田さんの作品が市役所にあるはずだ」と知らされたこと。市職員が作品を“捜索”したところ、4月になりカーテン裏から見つかった。カーテンで日差しやたばこの煙から守られていたため、汚れや色あせがなく保存状態は良いという。海外でも人気のある方で取り引き金額が高く推移している作家です。「泉」は市場価値でいうと2000万円以上します」と説明する。



現場に行って、人と会って、現品を見て、何気ない話をして・・・
まず行動に移すことが大事かと思えます。

ご安全に!

代表取締役社長 赤堀 肇紀

平成27年度 竹の子会 総会

